

2024 春の大会の事

片倉は秋の大会でブロックを勝ち上がり、本大会に出場しているので、(本大会初戦 修徳1－4 で敗退)、春は本大会よりの出場となった。

本大会 1 回戦

相手はブロックの代表決定戦で豊多摩相手に最終回大逆転で勝利し、勢いにのる桜町だったが、この日は初回から片倉打線が爆発。5 回目までに 12 安打 11 点の猛攻。一方、片倉先発の左腕・田中は 4 回まで 4 安打されるものの、3 つのダブルプレーで無失点に抑える。5 回はリリーフした右サイドの松下が三者凡退の抑え完封。5 回コールドの快勝であった。

2 回戦

相手は秋大会ベスト 16 のシード校・昭和。秋の練習試合では負けている。また試合は昭和高校の目の前の昭島球場だったこともあり、相手のスタンドは吹奏楽部の応援も入りアウェー感いっぱいである。片倉は初回、先頭・松苗のヒット、3 番中原のツーベースでチャンスを作った後、なんと 4 つの四死球で押し出しの 3 点。試合を有利に進める。

しかし、昭和も 2 回 1 アウト満塁スクイズ(内野安打)と内野ゴロで 2 点。片倉は、3 回は橋口の、4 回は上野のタイムリーでそれぞれ 1 点、昭和も 6 回、満塁からの押し出しで 1 点を奪うも、両チームとも好守でそれ以上の得点は許さない。

5 対 3 で迎えた 7 回、片倉にビッグプレーが出る。1 アウト 1 塁から昭和のライトオーバーのツーベース。これをカットに入った。セカンド工藤がホームに好送球で 1 塁ランナーを刺す。このプレーで昭和の勢いを止めた。

片倉はその工藤のセーフティーバントヒットなどで作ったチャンスに、相手のミスで 1 点を奪う。結局 6 対 3、ピッチャーの橋口は 10 の四死球を与えるものの、粘り強い投球で 163 球、完投。

両チーム合わせて 20 の四死球の試合ではあったが、両チームよく守り、引き締まった好試合になった。この 2 試合、体調不良のショート古川にかわり、ショートに入った田中(崇)[秋のレギュラー]が好守でチームのピンチを救う。

冬場の練習で、目指したチームの選手層の厚さが出た試合だった

3 回戦

1 日おいての 3 回戦はベスト 16、夏のシード権をかけた試合。相手は錦城。この試合を前に打線の中心の中原と初戦で好投した 2 人の投手はいずれも体調不良で欠場。前々日 163 球投げた橋口に頼ることになる。その橋口は初回から球がいかず苦しい投球。結局 10 安打を打たれ、2 つの内野エラーもあり 5 失点。それでも外野からの送球でホームをねらった相手の走者を 2 度にわたって刺すなど、冬場の練習の成果は出すことができた。

一方、攻撃は相手の左腕投手の投球に見事にはまり、たったの 2 安打。チャンスらしいチャンスを作ることもなく完封を許す。0 対 5 の完敗である。なお、翌日の学校での練習には橋口を含み、さらにベンチ入りメンバー十数人が体調不良で欠席。いずれもインフルエンザであった。体調管理の大切さを痛いほど感じさせられた大会であった。